

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100167		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム ユーミー きらりユニット		
所在地	松江市津田町313番地		
自己評価作成日	平成29年1月23日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成29年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者様と生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関わりを持つようにし、毎日の生活を柔軟に、入居者様の意向に沿うように努めている。
 ホールでは昼夜で内容を変えたアロマを焚き、落ち着いた環境で寄り添い、過ごす中での気づきを大切に、入居者様一人ひとりがあるままの姿で生活できるよう心掛けている。
 今年度は近隣の方より新鮮な野菜を差し入れて頂く機会も多く、味覚で季節を感じて頂けるような取り組みも行うことが出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建ての2階部分のみに9名の入所者が生活している。こじんまりと見渡せる範囲内にまとまり、入所者の全員が女性で職員も殆どが女性ということもあり、全体的な雰囲気も柔らかく落ち着いた感じがある。ここ数年間続けての調査になるが、毎回ホールからは、楽しそうな歌声や体操の掛け声が聞こえるなど、職員と一緒に楽しんでいる様子が大変心地いい。街中で立地条件がいい為、食事や買い物等の外出の機会も多くなっている。また、運営推進会議の開催や地元行事への参加など、今まで築いてきた地域との交流の成果がボランティアの多さにも現れている。今年度は職員のアロママッサージの取得や終末ケアに繋がる僧侶の法話を聞く取り組みなど、研修内容も幅広いものになってきており、前向きな積極的な取り組みに今後の期待も大きい。ここまで築いたものが今後繋がるよう、求人

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
4787	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
宇5才	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に目にする場所に理念を掲示することで意識付けを行うと共に、年度初めのミーティングで理念について話し合う場を設け、理念に基づいた行動の実践に取り組んでいる。	開所時に職員で話し合い作成した理念を継続。勤務年数が全員3年以上あるため、改めて話をするというよりも、初心に帰るという思いもあり、年度当初の研修時に取り上げ話をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや公民館活動には積極的に参加して交流の機会を持つようにしている。	体育祭、文化祭の見学、月に1度の茶話会への参加などを通して地域との交流を継続している。オルガン、フルート、琴、オカリナなどの音楽ボランティアや、銭太鼓、フラダンス、日本舞踊、笹巻づくりなど多くのボランティア交流が年々盛んになってきている。介護相談員制度も利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元小学生の「ふれあい町探検」学習や中学生の福祉体験学習などの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者との意見交換や情報交換を行う場となっている。会議で得た情報などを日々のサービスに活かしている。	利用者と利用者家族に加え、町内会長、民生委員、福祉相談員、社協、公民館の運営委員など多くの地域関係者に包括からの参加を得て定期に開催。行事に合わせて開催することで、参加者も多く情報交換の場として役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場での意見交換の他、疑問などは電話や市の窓口で直接話を聞くようにしている。	運営推進会議には毎回参加がある。空き情報を伝え入居者の紹介も得ている。介護保険制度で判断を迷う場合には気軽に電話等で相談を持ちかけるなど、いい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外での研修に参加し、理解を深め、言葉や行動を抑制しないケアを行っている。	身体拘束をしないケアを実践。歩行状態が不安定な方でもセンサーマットの使用は考えていない。虐待防止を含め、委員会を作り研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を開催し、注意喚起を促すとともに職員の知識が深まるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年度勉強会を行い、職員の理解を深め、必要に応じて相談や助言が行えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明時間を設け、家族の不安や疑問点にも分かりやすく説明を行い、理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者自治会を定期的開催し、生活について全員で意見を出し合う場を設けている。また、家族に対しては、毎月近況報告を写真付きで送る他、必要に応じて電話での報告や相談も行っている。	利用者自治会があり定期的に集まり意見を聞く機会としている。初めの挨拶をするなど担当を決めたり、介護相談員の訪問に合わせて行うなどの工夫をして開催することで、精神面への良い効果も現れている。月の報告も写真入りで送り意見を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望が出しやすい関係づくりに努めている。	1ユニットでこじんまりとして、日頃から何でも話やすい環境になっていることもあり、改めて個人面談は行っていない。管理者は普段の様子を見ながら必要と判断した場合は、個人的に誘い外で話を聞く機会を作るなど、思いを聞き出すよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況に応じて、労働時間の変更を行うなど配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為に支援制度があり、資格取得後は給与に反映される。外部研修にはできるだけ多くの職員が参加できるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修への参加を通じ、情報交換や交流をもつようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行う面談の場において、本人の感じている不安や生活に対する要望を確認するようにしている。入居後はコミュニケーションを多く持ち、安心して暮らせるための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で家族の意向を伺っている。入居後は安心して頂けるよう状態報告を行ったり、行事への参加呼びかけを行うなどして信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの情報収集の他、担当ケアマネからの情報収集を通じ、グループホームへの入所が適切なのか見極めるようにしている。必要に応じて他のサービスについての情報提供を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の思いに寄り添い、思いを共有できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に外出付き添いを依頼したり、ホーム内の行事に家族を招くなどして家族と本人の距離が離れすぎないように交流の場を持つよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人知人の来訪時にはゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。また、本人の希望する場所への外出は、家族の協力を得ながら対応するようにしている。	以前利用していたスーパーや美容院に一緒に行くようにしたり、入院時のお見舞いに出かけたり、手紙を書くなどの補助をしたり、今までの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが困難な入居者には、席に配慮して、みんなの輪の中で過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の了解を得て転居先へ面会に伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は出来るだけ話す時間を作り、会話の中から思いや意向の把握に努めている。新しく得た情報は連絡帳で全職員に伝わるようにしている。	利用者自治会での意見や日頃の関わりの中で聞いたことなど、連絡帳に記入し職員間で共有することとしている。	個別記録の充実を図ることで、より本人の思い入れのあるケアに繋げていきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族、関係者から可能な限り情報を得るように努め、入居後も継続して情報を聴き取り、職員間で情報共有できるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの健康状態を把握し、体調の変化やその日の状況などを申し送り、情報は全員で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と入居者を担当する職員が中心にカンファレンスで話し合い本人や家族の意向を反映した介護計画を作成している。	介護保険の更新時の話し合いの場に関係者の参加が難しい場合は、サービス内容等を問うアンケートを事前に送り、意見を集約するようにしている。モニタリングも月1回行い現状に即した計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭での引き継ぎ、申し送り表、個別記録をもとに気づきや体調変化等を職員間で情報共有し、必要に応じ介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者本人や家族の意向に柔軟な対応が行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時の挨拶や地域行事への参加、近隣施設を利用するなどして気分転換や地域住民との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関との連携を図り、体調不良や急変時はその都度医師に報告し常に適切な医療を受けられるよう支援している。	以前からのかかりつけ医を継続。週1回や月2回の往診の方や家族の付添で受診する方もある。24時間対応の協力医を確保しており、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への申し送り表を作成し、日々の些細な変化も記録に残し、相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が同行し日頃の状態を含め詳しく情報を提供するようにしている。入院中は積極的に面会し、状態確認を行い家族との情報交換を行い、早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応指針を説明し、事業所の方針を伝え理解して頂いている。実際の見取り期には段階ごとに家族との話し合いの場を設け、その都度意向の確認を行っている。	本人や家族が希望され、ここでの対応が可能な場合には今まで通り終末ケアに取り組む意向としている。現在も重度化し1時的に訪問看護と契約して対応している方が1名ある。お坊さんの法話を聞くなどの職員研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。蘇生法などの講習の機会を設け、全職員で繰り返し学習することで緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定通報・避難・消火の訓練を入居者と一緒に行っている。緊急連絡網の通報訓練も実施。運営推進会議で地域の協力を呼びかけ、地域との交流を深め、支援体制整備に取り組んでいる。	定期の訓練を行い有事に備えているが、夜間は職員1名になり地域の支援が必要のため、来月地区の消防団と合同の避難訓練を行う事としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年、接遇・コミュニケーション・プライバシー保護の勉強会を開催し、職員は入居者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	ケアの基本として声かけなど接遇面や個人情報を含めたプライバシーなどに関する研修を実施している。職員用として注意喚起を促す掲示を行い、徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を通じ、本人の訴えや思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムやその時々希望や要望を尊重し、柔軟な対応を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの選択は本人にして頂いたり、お化粧をする方、アクセサリーを身に着ける方など様々。 個人の持ち物は一緒に買い物に行き、自分で品物を選んで頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際には希望を伺い、リクエストにこたえるようにしている。テーブル拭きやおしぼり畳み・配膳・下膳など出来ることをお願いし職員と一緒にしている。出前や外食なども取り入れている。	調理担当の職員が献立を決め3食ここで作っている。調理の際の音や臭いが身近に感じられる中、職員が間に入り話をしながらゆったりと食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせて食事形態を調整している。水分量が少ない方には、好きな飲み物を用意したり、ゼリーや補助食品なども活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。必要に応じ訪問歯科の依頼も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄が続けられるよう支援している。	立位がとりにくい場合も2人介助でトイレに座れるようにしたり、個々のサインを見逃さないように、早めの声かけでパットの使用枚数が増えないように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に気を付け、繊維質の多い野菜を取り入れたり、水分をしっかりとって頂くよう促している。体操や歩行訓練なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や気分に応じて対応できるようにしている。入浴中は好きな曲を掛けたり、入浴剤を使用するなど気持ちよく入浴して頂けるよう配慮している。	週2回の入浴回数を確保。毎回希望を聞き、中には毎日の方もいる。アロママッサージの研修を受けた職員が入浴時ハンドマッサージを行うなど、ゆったり楽しめる時間として好評を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら本人の希望にそって休息して頂いている。夜間は一人ひとりの睡眠パターンに合わせてベッドへ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には連絡ノートで全職員に周知する。変更後の変化は主治医に報告し指示を受けている。確実に服薬できるように人によってはとろみをつけるなど工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や得意なこと、苦手なこと等を把握し、本人の楽しみや役割が継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉狩り、外食やドライブ、お墓参りなど希望に応じて外出できるよう努めている。地域の方の協力を得て地域の行事などにも参加している。	身体状況や天候を配慮してできるだけ外出の機会を増やすようにしている。毎月行事担当が計画して外出したり、普段はドライブや買い物に数人づつ出かけたりにしている。街中で近くにお寿司屋さんがあるため、外気を感じながら皆で歩いて出かけるようにしており、楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自己管理できる方がいない為、ホームで管理しているが、外出時は財布を持ち、自分で支払っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の取次ぎを行っている。 家族や友人と手紙のやり取りをされている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、レクリエーションで作成した作品や行事の際の写真などを飾っている。加湿器やエアコン、窓の開閉で空気の入替えも適宜行っている。	2階建てで2階部分を利用しているため、窓から外の景色を楽しめたり、天気の様子を感じられる。ダイルームには雛人形が飾られたり、手芸品や季節の花がきれいに生けられ、落ち着いた雰囲気が感じられる。道路に面しているが比較的静かである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々、自分の過ごしたい場所で自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物などを持ってきて頂き、居心地よく過ごして頂けるよう配慮している。	どの部屋にも出窓があり外がよく見え明るい。鉢花を飾ったり、使い慣れたソファや鏡台、テレビなどを置いたりして、部屋でもくつろげるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や、ホーム内を整理整頓して安全にホーム内を移動できるようにしている。 体操も積極的に取り入れ、身体機能の維持向上に努めている。		